

ライセンスに関する良くあるご質問と回答

Arcserve UDP 7.0

1. Arcserve Unified Data Protection (以下、Arcserve UDP)は、どのようにライセンスすれば良いのでしょうか。

Arcserve UDP は、保護対象のサーバ単位 (Advanced Editionのみ; 物理環境に対応) とCPU ソケット数単位 (Advanced、Premium、Premium Plus の各Edition)、またはクライアントPC 単位 (1PC、または5PC 分; Workstation Edition) でライセンスいただきます。これらの他にも、サーバ数やCPU ソケット数に関係なく、保護対象のテラバイト単位でライセンスが可能な容量課金(キャパシティ)もご用意しています。

2. 容量課金(キャパシティ)ライセンスの場合、どのように保護対象データを見積もれば良いのでしょうか。

保護対象のデータ(または、“ソースデータ”と呼びます)とは、実際に保護されるデータの総容量を意味します。100TB のデータをお持ちであっても、10TB をArcserve UDP を導入して保護される場合は、10TB 分のライセンスを購入ください。

3. 本番環境で容量課金(キャパシティ)ライセンスを導入しました。同じライセンスキーを使ってさらに別のサーバにあるデータを保護することは可能でしょうか。

はい、可能です。ただし、購入いただいた保護対象データの総 TB を超えてお使いいただくことはできません。

4. CPU ソケット数が2つあるサーバを保護したいと思いますが、実際には1ソケットしか搭載していません。

1 CPU ソケット分のライセンスで良いのでしょうか。

はい、こういった場合、稼働中のCPU ソケット分のライセンスでArcserve UDP をお使いいただけます。

5. Arcserve UDP のCPU ソケット単位ライセンスで、複数の違うエディションを混在できますか？

はい。例えば、CPU ソケット単位ライセンスのUDP Advanced Edition とUDP Premium Edition のキーを同一コンソールで使用できます。

6. Arcserve UDP のCPU ソケット単位ライセンスと Arcserve Backup と Arcserve RHA のコンポーネントは混在可能ですか？

はい。サポートされています。

7. CPU ソケット単位、またはサーバ単位のライセンスと容量課金(キャパシティ)単位のライセンスを混在して利用することは可能でしょうか。

同一の Arcserve UDP 管理コンソール上で、CPU ソケット単位、またはサーバ単位ライセンスと容量課金(キャパシティ)ライセンスを組み合わせて利用することはサポート対象外です。

8. Arcserve Backup を活用したファイルベースのバックアップ機能や、Arcserve RHA によるファイルレプリケーションとサーバ自動切換機能はArcserve UDP のどのEdition でも利用できますか？

Arcserve Backup を活用したファイルベースのバックアップ機能とArcserve RHA によるファイルのレプリケーションはPremium Edition 以上で利用できます。Arcserve RHA によるアプリケーションデータのレプリケーションとサーバ自動切換機能は、Premium Plus Edition で利用できます。

9. Microsoft 365(Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive)を保護できる機能がオプションにありますか、どのようにライセンスするのでしょうか。

バックアップ対象テナントに含まれるすべての有効なアカウント数のサブスクリプションを購入します。 Exchange Online、SharePoint Online、OneDriveのいずれもバックアップできる 10 アカウント単位の年間サブスクリプション(1年分のライセンス料とメンテナンスがセットになったライセンス体系です)で購入いただけます。容量課金(キャパシティ)ライセンスなら、購入した容量範囲内でサブスクリプション数を無制限に利用できます。復旧ポイントサーバにバックアップされたMicrosoft 365データを、テープに2次保管する場合には、いずれかのArcserve UDP Edition ライセンスが必要です。

10. Arcserve Backup のライセンスポリシーに、「VM Agent per Host License」が含まれているので、プロキシサーバを保護するのに追加のライセンスは不要と書かれています。このポリシーはUDP Premium Edition に含まれるArcserve Backup でも同じでしょうか。

いいえ、プロキシサーバも保護するには、プロキシサーバ用にライセンスが必要です。

11. Premium と Premium Plus Edition は、ローカルのHA シナリオに加えてWAN 越しのHA シナリオにも対応可能でしょうか。

はい。

12. Advanced Edition には、Arcserve RHA の機能が含まれていますか。

いいえ、標準機能である復旧ポイントサーバ間のレプリケーションのみ含まれていますので、保護対象のデータのレプリケーションを行う場合は、Premium Edition、またはPremium Plus Edition、または個別に Arcserve RHA を購入いただく必要があります。

13. 単体で購入したArcserve RHA とUDP Premium Edition に含まれているRHA でレプリケーションを構成することはできるのでしょうか。

はい、可能です。

14. 遠隔地への仮想スタンバイをするには、追加ライセンスが必要でしょうか。

いいえ、保護対象のサーバにArcserve UDP をライセンスいただくだけです。

15. 導入中の Arcserve Backup のライセンスが間もなく更新の時期を迎ますが、このタイミングで Arcserve Backup のライセンスを Arcserve UDP に変更することは可能でしょうか。

Arcserve Backup から Arcserve UDP へは製品をまたいだアップグレード(クロスグレード)が可能です。製品型番が用意されていますので詳しくは価格表をご覧ください。

16. Nutanix Acropolis Hypervisor を保護したいのですが、どのライセンスを購入すれば良いでしょうか。

Nutanix Acropolis Hypervisor 用の製品型番が用意されていますので、価格表の「Arcserve UDP Advanced Edition for Nutanix AHV – Socket」をご覧いただき、購入ください。他の仮想環境同様に、CPU ソケット単位でのライセンスとなります。

17. Arcserve UDP v6.5 Advanced Edition を導入し、メンテナンスが有効ですが、Arcserve UDP 7.0 で対応した Nutanix AHV で使いたいのですが、無償でアップグレードは可能でしょうか。

はい、可能です。Arcserve UDP 7.0 への無償アップグレード申請の際に、Nutanix AHV を使用すると連絡事項欄にてお知らせ下さい。もし有効なメンテナンスをお持ちでない場合も「以前のバージョンからのアップグレード」価格が適用されます。

18. Arcserve UDP v5 で Standard Edition を導入していますが、メンテナンスの更新を行っていません。Arcserve UDP 7.0 で Advanced Edition へのアップグレードを検討していますがこの場合、どのようにすれば良いのでしょうか。

有効なメンテナンスをお持ちでない場合は、Arcserve UDP 7.0 Advanced Edition の「以前のバージョンからのアップグレード」価格で購入いただくことができます。アップグレードの詳細は Arcserve ジャパン ダイレクト（TEL : 0120-410-116）にお問い合わせください。

19. 仮想マシンを保護するためにサーバ単位ライセンスを利用することは可能でしょうか。

いいえ、サーバ単位ライセンスは仮想マシンをエージェントレスバックアップできません。仮想マシンのバックアップにはソケット単位ライセンスを仮想環境の物理CPU数分購入してください。(エージェントベースの仮想マシンの保護の場合、ハイパーバイザの指定によって仮想ホストに関連したライセンスを仮想マシンが利用できます。)

20. NAS サーバの NDMP バックアップを行うには、どの Arcserve UDP Edition をライセンスすれば良いでしょうか。

Arcserve UDP Premium Edition でNDMP バックアップが可能です(Arcserve Backup を活用)。ライセンス数は、バックアップ対象となるNAS サーバの台数分必要です。

複数のコントローラを搭載しているNASをバックアップする場合、ルートディレクトリが共通のサーバ名となる場合はライセンスは1つで構いません。但し、ルートディレクトリをコントローラ毎に分けている場合は、コントローラの台数分ライセンスが必要です。

21. クラウド上のデータを保護する場合、Arcserve UDP をどのようにライセンスすれば良いのでしょうか。

1台のクラウド仮想サーバあたり 1 ライセンスをご購入ください。Advanced Editionをご利用の場合は、1 クラウド仮想サーバにつき 1 サーバ単位ライセンス（※）。Premium Edition以上の場合には、1 クラウド仮想サーバにつき、1ソケット単位ライセンス(仮想CPU数や仮想コア数に関係なく)が必要になります。

※ 旧バージョンから無償アップグレードを行った場合は、従来通りのご利用が可能です。

22. Arcserve UDP Workstation Edition には Host-based VM backup と仮想スタンバイの機能が含まれるのでしょうか。

Arcserve UDP Workstation Edition はHost-based VM backup を実行する機能を提供していません。

Arcserve UDP Agent をライセンスされているクライアントPC にインストールすることで、仮想スタンバイを利用できます。

23. Arcserve UDP の無償トライアルは、ライセンスキーを適用した際に終了になるのでしょうか。

購入した製品のライセンスキーを適用することで、製品をインストールし直すことなく引き続き製品をご利用いただけます。

24. Arcserve UDP の複数のEdition のライセンスを混在して管理することは可能でしょうか。

はい、可能です。例えば、Arcserve UDP Advanced Edition のライセンスキーとArcserve UDP Premium Edition のライセンスキーを同じArcserve UDP のコンソールで管理することができます。

25. Arcserve UDP のライセンスとArcserve Backup やArcserve Replication and High Availability を混在して利用することは可能でしょうか。

はい、可能です。

26. Arcserve UDP Workstation Edition では Microsoft SQL Server のバックアップは行えますか？

SQL Server Express Edition に限り可能です。バックアップ対象の os がクライアント os であったとしても、SQL Server Standard Edition 等、有償の SQL Server がバックアップ対象に含まれる場合は Arcserve UDP Advanced Edition をご利用ください。

Copyright © 2021 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved. Arcserve の許可なく、複製・配布を禁止します。Linux[®]は、米国および
その他の国のLinus Torvalds の登録商標です。Windows は、米国およびその他の国のMicrosoft 社の登録商標です。その他すべての商標、
商標名、ロゴはそれぞれの会社に帰属します。